



Report 1

2022.3.1 Tue.

フューチャーコンパス 第31回 講演会

演題「好きなこと“も”仕事にするパラレルキャリアという働き方」

参加者：106名

【講師】パーソルキャリア(株)「サラリーズ」事業責任者／(株)ハピキラFACTORY代表取締役／

慶応義塾大学大学院政策・メディア研究科特任助教 正能 茉優 氏

プロフィール／慶応義塾大学在学中に、ハピキラFACTORYとしての活動を開始。卒業後は、(株)博報堂、ソニー(株)を経て現職。ハピキラFACTORYでは地域のおいしいものを魅力的に発信するリブランディング事業、パーソルキャリアではキャリアデータを企業向けに提供する事業の責任者を担う。



【講演要旨】

1. 若者は仕事と趣味のバランスを追求する傾向

未来について楽観的な見通しが立ちにくい世の中であって、若い世代は「今日」を将来のための時間と捉える代わりに、仕事や趣味、家族など、人生を構成する要素をそれぞれ大切に、100点は取れなくても、バランス良くほどほどに今現在を充実させる生き方を望んでいる。

最近注目を集めている副業・兼業(以下、副業)は、失業リスクを分散し、趣味や得意分野を仕事にすることで、理想的なライフスタイルを実現する方法の一つといえる。

2. オンリーワン副業は誰にでも可能性がある

しかし副業は、単に自己実現を容易にする手段というだけではなく、専門性を組み合わせることでオンリーワンのキャリア形成を実現したり、スキルアップにつながったりと、自分自身の可能性や活躍の場を大きく広げることにもつながる。

例えば、まず副業をはじめるときには、「自分が何を提供できるのか」を認識した上で、それを発信する必要がある。自己アピールや直接交渉の機会が増え、矢面に立つ力や判断力を鍛えることができる。また、限られた時間の中でプライベートも充実させながら仕事を充実させるには、時間あたりの生産性を上げていく必要がある。一人ひとりが時間あたりに生み出す価値が向上していく。

3. 副業を通じ社会とのつながりがつくれる

こうして社外で活躍する機会が増えることが、結果と

して人材や情報の流出につながるのを恐れて、副業を認めない企業もある。しかし、副業で培った人脈やスキルをもう一つのキャリアで生かせることに加え、それぞれの職で異なる役割を担う事で身につく多角的な視点など、社員の副業は組織にもメリットをもたらす。私自身、経営者のほかに企業の構成員としての事業責任者、そして大学教員などを兼任し、組織をまたいで活動することには、一般に心配されるようなリスクを上回る良い点があると実感している。

4. 生産人口減少社会への緩和策としての副業

コロナ禍に進展したオンライン化によって、都市部にいながら人材不足に悩む地域で活躍するなど、副業でできる可能性も広がった。これまでの環境では特別でなかったスキルが、別の地域では希少なものとして価値を見出してもらえる場合もある。自分が何を提供できるかは、それが求められる環境によって異なる。

必要な分だけ、必要な地域でスキルを生かすことができれば、その地域の課題解決を可能にし、従事する人にとっては個の力の底上げにつながると同時に、もう一つのキャリア・組織で経験を生かせるという、良い循環が生まれる。そして、副業による研鑽を通じて人の生産性を上げることができれば、労働人口が減っていく日本の状況下においても社会全体として生産を維持し、向上することが期待できる。

パラレルキャリアは本人や組織の価値を高め、地域の問題を解決し、社会全体を良い方向に導く取り組みだと確信している。

Report 2

2022.3.10 Thu.

第19回アカデミックナイト

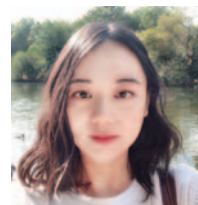
参加者: 25名

中部圏の大学で生まれている数多くの技術シーズと企業とのマッチングを目的として開催しているプログラム「アカデミックナイト」は、第19回として「光を利用した先進技術」をテーマにオンライン形式で開催した。

講演1: 光触媒シートの開発 ～人工光合成によりCO₂と水と太陽から燃料を作る～

【講師】名古屋大学工学研究科 准教授 王 謙 氏

プロフィール/2014年東京大学大学院工学系研究科化学システム工学博士課程修了、2014年東京大学博士(工学)、2014年～2018年東京大学大学院特任研究員、2018年～2021年University of Cambridge(United Kingdom) Marie Skłodowska-Curie Fellowを経て2021年から現職。



【講演要旨】

植物の光合成を人工的に実現する人工光合成の研究は、水を分解して水素をつくる研究や植物のように二酸化炭素と水を原料に用いて有機化合物をつくる研究が世界的に活発である。

人工光合成によってつくられる物質が、水素やプラスチックなどの化石資源を由来とする物質と置き換えることができれば、地球温暖化と化石燃料の枯渇を同時に解決することができる。人工光合成は、炭素循環やカーボンニュートラルの実現に貢献する技術の

選択肢の一つとして期待されている。

研究室では、人工光合成で重要な役割を担う光触媒の研究を行い、光触媒シートを開発した。この光触媒シートは、補助電力、電子伝達剤などを使わずに水中で太陽光を照射するだけで、純水を水素と酸素に分解し、太陽光-水素エネルギー変換効率は、世界最高クラスの1.1%を達成した。また、実用化を目指して、製造プロセスの開発も進めており、今後、より高効率な光触媒を開発し実用化を目指す。

講演2: 可視光応答型光触媒による環境浄化

【講師】名城大学理工学部 教授 大脇 健史 氏

プロフィール/1981年名古屋大学大学院工学研究科結晶材料専攻修了、1993年名古屋大学博士(工学)、1981年～2014年(株)豊田中央研究所を経て2014年から現職。



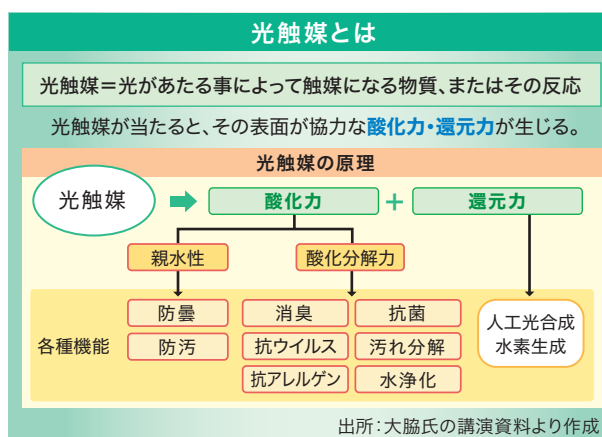
【講演要旨】

大気汚染や室内汚染は我々にとって身近な課題であり、「空気を浄化したい」「菌やウイルスを減らしたい」などの要望は数多くある。研究室では、光触媒を利用してこの課題解決に取り組んでいる。

光触媒とは、光があたることによって触媒になる物質であり、そこで生じた酸化力が、防汚・消臭・抗菌・抗ウイルスなどに利用されている。

光触媒は、「太陽光、室内光を利用できる」「半永久的に使用できる」という長所があるが、「光がないと機能しない」「大量処理には向かない」などの短所もあげられ、長所と短所を踏まえて利用することが重要である。新型コロナウイルスに対する抗ウイルス性も確認されており、

今後、「空気浄化・水浄化」「身の回りの製品表面の抗菌・抗ウイルス加工」へのさらなる展開が期待される。



Report 3

2022.3.26 Sat. キッズ&ジュニアプログラム

ものづくり体験型・理科学習ワークショップ

伝統工芸 七宝焼き体験 × 理科学習

参加者：29名

ナゴヤ イノベーターズ ガレージでは、子どもたちにものづくり体験やゲームを通じたビジネスモデルの意義やつくり方を学べるキッズ・ジュニアイベントを運営している。今回は、ナゴヤ イノベーターズ ガレージのイノベーション人材育成プログラムの卒業チームであるアソビエンスと(株)太田七宝の若手クリエイターの野中さつき氏とのコラボレーションにより、七宝焼き体験を通じて、身の回りに存在する化学反応や物理現象などの理科を楽しく学ぶワークショップを実施。午前と午後の2回に分け、計29名の小学生が参加した。



銅板に釉薬をのせフリットガラスで自分だけの七宝焼きをデザイン



900℃の窯を使い色や材質が変化していく焼成工程を興味深く観察

子どもたちからは、「焼くことで色や柄が変化するのとても面白かった」「七宝焼きがツルツルで光って見えるのは光の反射だとわかった」などの声が聞かれた。保護者からは、「学校で習う勉強の理科とは違い、子どもたちが体験の中で楽しんで自ら考えている姿が嬉しかった」などの声が寄せられた。



INNOVATOR'S GARAGE

ナディアパーク3階にエリア拡張



新規事業開発者・スタートアップの共創スペースが

2022年7月OPEN

2019年7月の開設以来、ナゴヤ イノベーターズ ガレージ(場所:ナディアパーク4階)の活動スケールは年々大きくなっている。一方、新規事業や価値創造における量と質の向上や加速化といった新たな課題や、次のステージへのステップアップの必要性が浮き彫りとなっている。これらの解決には、ビジネスプランを推進させる機会が重要と考え、メンターや先輩起業家とともにコミュニティを形成し、ビジネスプランをブラッシュアップする共創スペースとして、名古屋市と連携し3階にエリアを拡張することとした。共創スペースは、ワイワイガヤガヤをコンセプトに、事業会社の新規事業開発者やスタートアップ、未来の起業家たちが集い、4階とは異なる雰囲気や活動で推進できる空間とする。また、新たなプログラムも順次展開を予定している。今後の活動にご期待ください!